

日高高等学校・附属中学校

実施日時	令和3年 10月 28日 (木)
参加者	生徒260名 (高校1年・附属中1年)、教職員10名、計270名
実施内容	避難所運営訓練、応急手当、心肺蘇生法、土嚢積み訓練 等

ねらい

中高生における防災学習・スクールを通して自助・共助に関する理解を深め、将来の避難率先者の育成を図る。

次年度も、この形での実施を検討している。

主なプログラム

- 1 自衛隊による防災訓練 (高校1年)
- 2 「出張！減災教室」(附属中学校1年)

概要

1 自衛隊による防災訓練

例年は全校生徒による避難訓練・防災スクールを実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、1学年のみの防災スクールを実施した。

今年度は自衛隊に協力をいただき、最初に、災害時に際しての行動の仕方や準備等についての全体講話、その後、3展開 (心肺蘇生法、簡易担架・止血法、土嚢積み訓練) に分かれて、体験学習をおこなった。

例年であれば全校生徒でおこなうため、学年ごとの体験学習であったが、今年度はクラスごとに体験学習に取り組むことができ、深い学びを体験させることができた。

また、自衛隊からの最後の講評では、非常に意欲的・主体的に取り組んでいたという言葉をいただいた。



2 「出張！減災教室」

附属中学校においても、例年全学年が防災スクールに参加しているが、高校同様、1学年のみの実施となった。

最初に「地震体験車による地震体験」を全生徒がおこない、大地震時の揺れや、家具の状況等について学ぶことができた。

その後教室に移動し、県が推進している「きいちゃんの災害避難ゲーム」を使用し、いざという時にどのような行動が必要になるかを、生徒自身で考え合い、深い学びを体験させることができた。



参加者感想文

- ・中学校のときは、友達が体験しているのを見ているだけだったが、今回の防災スクールではすべての体験に参加でき、友達と協力して取り組むことができてよかった。
- ・自衛隊の人の説明がわかりやすく、楽しく体験させてもらったことが勉強になった。
- ・今回の防災スクールを通して、いざいざというときに行動できる人間になりたいと強く思った。

成果と課題

【成果】

今年度は感染症拡大により、例年と比較して、全体としては規模縮小となったが、その分、個人としてはさまざまな体験学習に参加する機会が増え、より深い学びを実施することができたと考える。

また、生徒の感想のなかにも、防災への意識が高まったという意見が多くあり、今後に向けてのいい経験となった。

【課題】

今年度は防災スクールに参加できていない学年もあるので、防災への関心が高くなる機会を、別途設けていきたいと考える。